

秋田県の 教員採用試験対策本

～TEE プロジェクト～

田中希



目次

1. この本について	
1-1. はじめに	1
1-2. TEE プロジェクトについて	1
2. 教員採用試験について	
2-1. 秋田県が目指す教職員像について	2
2-2. 「平成 29 年度 秋田県教員採用試験」 (p 1～39)	
3. 秋田県の教員採用試験比較	
3-1. 秋田県の今年度と過去 4 年度分の比較	43
4. 傾向について	
4-1. 「秋田県教員採用試験」の傾向	45
5. 予測問題	
5-1. 「平成 30 年度 秋田県教員採用試験」 予測問題について	45
5-2. 「平成 30 年度 秋田県教員採用試験」 予測問題 (p 1～7)	



1. この本について

1-1. 初めに

この本は、秋田県の傾向を昨年まで研究していた「視覚的表現」や「楽しめる資料づくり」の成果を活かし、理解しやすい資料にまとめ、今後また受験するときや後輩達に役立ててもらうために作成した秋田県の教員採用試験対策本である。

現在、秋田県の教員採用試験の問題の解答は県で公開しておらず、途中の計算も書かれている解答を作成することで役立つものになると考えている。また、予測問題を抜粋し作成したのでどのような問題が出題されるかだけでなくどのような順番で出てくるかなども知ることができるようになっている。

1-2. TEE プロジェクトについて

TEE プロジェクトとは、この研究に付けた名前で“教員採用試験”という意味の“Teacher Employment Examination”の頭文字を取って付けたものである。このプロジェクトの目的は「教員採用試験の解答だけではなく傾向や各県の特徴をまとめ、今後教員を目指す人の参考・対策資料の作成」である。イメージは参考本で、解答・特徴や傾向、アドバイスを入れた対策テキストである。

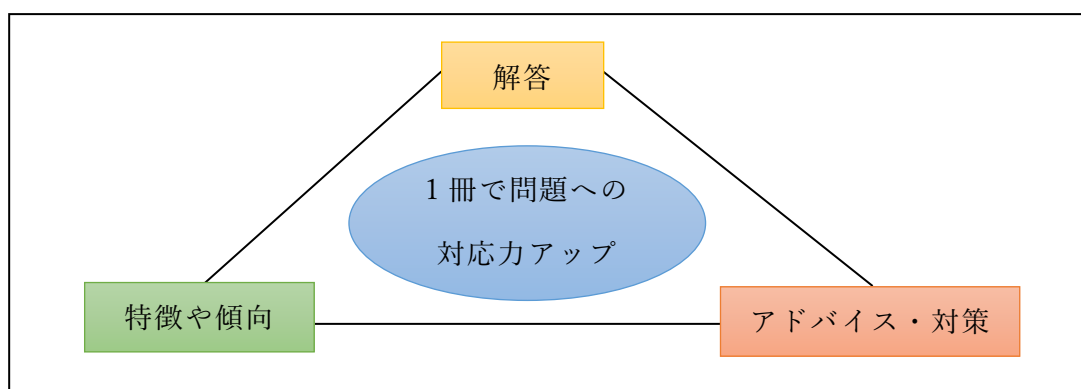


図 1 : TEE プロジェクトの目標



2. 教員採用試験について

2-1. 秋田県が目指す教職員像について

秋田県教育委員会は次の目標を掲げて学校教育の充実を図っている。


豊かな人間性を育む学校教育

- I 思いやりの心を育てる
- II 心と体を鍛える
- III 基礎学力の向上を図る
- IV 教師の力量を高める



秋田県は目指す教職員像

「児童生徒に夢をはぐくみ、ふるさと秋田の未来をたくましく切り拓いていく
児童生徒を育成する教職員」

- 
- 1 教育者としての使命感を持っている人
 - 2 人間の成長・発達について深い理解がある人
 - 3 幼児・児童・生徒に対する教育的愛情を持っている人
 - 4 教育等に関する専門的知識、広く豊かな教養がある人
 - 5 得意分野を持つ個性豊かな人
- そしてこれらを基盤とした実践的指導力を有する人

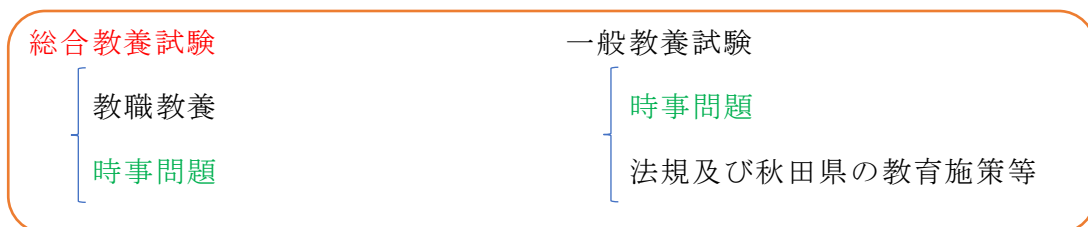
平成 29 年度秋田県教員採用試験の総合教養試験及び一般教養試験

理療科に関連する種別を受験する人 → 理療基礎

「高等学校実習助手」
「特別支援学校高等部実習助手」
・「特別支援学校寄宿舎指導員」

を受験する人 → 一般教養試験

それ以外の種別を受ける人（高等学校教諭数学科など） → 総合教養試験



- ・ **時事問題** 今年 1 月から 6 月までに発行された新聞に掲載された 国内外及び県内の事象について述べた社説 を題材として出題する。

今年度の内訳：秋田魁新報 6 問
朝日新聞 2 問
毎日新聞 1 問
読売新聞 4 問
The Japan Times 1 問

- ・ **教職教養** 本県のふるさと教育に関する内容も含まれる。
例：秋田県の「県の花」「県の鳥」「県の魚」
秋田県民歌の歌詞について

平成 29 年度秋田県教員採用試験の専門教科

- ・ 昨年と同じような順番で出題
- ・ 大学数学 秋田県の教員採用試験は教科の専門的知識を調べるため出題
 - 複素数平面 新課程で増えた分野
 - $\epsilon - \delta$ 論法

3. 秋田県の教員採用試験比較

3-1. 秋田県の今年度と過去4年度分の比較

出題された問題を「高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編」の「高等学校数学科の内容の構成」に沿って分類した結果を見ると・・・

出題が多い範囲

- 数学Ⅱ 「3 指数関数・対数関数」「4 三角関数」
- 数学Ⅲ 「1 平面上の曲線と複素数平面」「2 極限」
- 数学A 「1 場合の数と確率」「2 整数の性質」
- 数学B 「3 ベクトル」



- ◎ 数学Aの分野である「整数の性質」は、平成21年の改訂で新たに設けられた内容であり、平成24年に入学した生徒から先行して実施された内容である。そのため、高校時代に習っていない人も多いので教員採用試験で出題されているのではないかと考える。
- ◎ 昨年出題された分野から何題か出題されていることがわかり、一昨年出題された範囲からも昨年出題された分野よりは少ないが出題されていることがわかる。

表 1：出題された問題を学習指導要領の分野に分けた結果

	I												II								III																			
	1				2				3				4				5				1				2				3				4							
	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ				
今年																																								
H29																																								
H28																																								
H27																																								
H26																																								
H25																																								

	A												B												数学活用											
	1				2				3				1				2				3				1		2									
	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ								
今年																																				
H29																																				
H28																																				
H27																																				
H26																																				
H25																																				

他の分野と比べると
出題が多いことがわかる！



4. 傾向について

4-1. 「秋田県教員採用試験」の傾向

この5年間では

出題が多い分野

「三角関数の加法定理」

「条件付き確率」

「確率変数と確率分布」

「ベクトルの内積」

その他

「数列」、「積分」



表 2：秋田県教員採用試験問題 4 年間の比較

○	...	3年以上			
				教育問題	
	II	4	ウ	三角関数の加法定理	
	A	1	イ (ウ)	条件付き確率	
	B	1	ア (ア)	確率変数と確率分布	
		3	ア (イ)	ベクトルの内積	
○	...	2年			
	II	2	ア (ア)	点と直線	
		3	イ (ア)	対数	
			(イ)	対数関数とそのグラフ	
		4	イ (イ)	三角関数の基本的な性質	
	III	2	ア (ア)	数列の極限	
			(イ)	無限等比級数の和	
		4	イ	積分の応用	
	A	2	ア	約数と倍数	
		3	ア (ア)	三角形の性質	
	B	2	ア (イ)	いろいろな数列	
		3	イ	空間座標とベクトル	

教科で分けると数学 A や数学 B の内容からの出題頻度が高く、解くための知識として数学 II や数学 III の内容が必要になっている。

教育問題は学習指導要領からの出題ではなく、生徒の間違いについてどのように教えるのかなどの問題が多い。大学数学が必要となる問題も毎年出題されており、例として今年は $\epsilon - \delta$ 論法が出題されている。

5. 予測問題

5-1. 「平成 30 年度 秋田県教員採用試験」予測問題について

この予測問題は 5 年分の出題を調べ、多く出題されている分野の問題を「6 秋田県の数学科過去問 2016 年度版(共同出版)」のチェックテストから抜粋したものである。

具体的な問題番号は 5、7、12、18 である。

